

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

# ほっかいどうの社会保障

2016年10月24日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

くらしやすい社会へ 北海道社保学校 in 苫小牧 215人が参加

藤田孝典さんが記念講演「若者から高齢者の貧困の実態」

10月10日、苫小牧市内で、「格差と貧困のない社会をめざそう」をテーマに、北海道社会保障学校が行われ、道内各地から215人が参加しました。

学校長の大橋晃道社保協会長と現地実行委員長の宮崎有広勤医協苫小牧病院院長が挨拶、後援した苫小牧市のメッセージが紹介されました。

貧困問題に取り組むNPO法人ほっとプラスの代表理事の藤田孝典さんが「若者から高齢者の貧困と実態と展望」と記念講演しました。深刻な事例を紹介しながら、貧困を生み出す社会的要因にも触れ、日本国内で、子どもをはじめ若者、高齢者など年齢を問わず、憲法25条で保障する健康で文化的な生活とはほど遠い、深刻な貧困が広がっていると告発。15歳から39歳の若者の世代の約3600万人が、「貧困であることを一生涯宿命づけられた『貧困世代』だ」として、「満足な生活費も稼げず、今日一日食べていくのに精いっぱい」「将来の生活も不安だから、結婚・出産・子育てなんて『ぜいたく』としか思えない」とその実例やホンネを紹介。「若者の悲劇の現実を大人はわかっていない」と指摘し、お互い理解しあい分断を乗り越えることの重要性も強調しました。労働組合運動の強化、富裕層への課税など所得の再分配、家賃補助制度など住宅政策の充実などの必要性にも触れ、自らが社会的活動を続け、暮らしやすい社会に変えていくことを呼びかけました。

午後は、「国保問題を考える」「貧困対策・ナショナルミニマムを考える」「医療介護制度を考える」の3つに分科会も行われ、学習交流しあいました。

参加者からは、「とても分かりやすく貧困問題や対策が提起されました。私の家庭は母子家庭で奨学金を借りているので、他人事とはとても思えず聞きいりました。社会保障の制度をしっかりとらせてほしいと改めて感じました。署名活動など積極的にいっていききたい」などの感想を寄せました。



## 札幌豊平区 生活・医療費の深刻な相談も SOS相談会

22日、SOSとよひら生活なんでも相談会が行われ、悪天候の中、10人が会場に訪れました。医療や介護、生活、法律など幅広い相談が寄せられ、弁護士や司法書士、生活や労働相談員などが応じました。



一人暮らしの無年金の70代の女性は、月4万円のパート収入と二人の子どもからの仕送り（月11万円）で生活しています。蓄えはありません。家賃や光熱水費で月7万円かかりぎりぎりの生活です。国保料を払っていますが、介護保険料は払えないとのこと。「勤務先の契約は来年9月まで、仕送りも今後どうなるかわからない」と相談。生活保護申請することになりました。

夫が入院中のため一人で生活している80代の女性からは、医療費の相談が寄せられました。年金は二人で月16万円、夫の入院費用が月7万円、食費や光熱水費で月5万円かかります。「最近、ふらつきが頻回にあります。夫の入院費用のかかるので受診を控えている」と言います。無料・低額診療制度の手続きをして受診することになりました。60代後半の男性は、介護認定を受けたがどんな制度が受けられるか知りたいとの相談もありました。

11月15日（火） くらしのSOSなんでも電話相談会  
10時～18時 0800-080-0058（フリーダイヤル）

各地で相談会 11月6日：白石区 11月16日：東区 12月4日：清田区 西区や旭川でも